

発行:真砂小学校区コミュニティ協議会
編集:真砂小学校区コミュニティ協議会広報部会

真砂うきうき元気塾

「うきうき元気塾にまきまじゅう」

福祉部会

9月15日(土) 午後1時から2時間、にわたり坂井輪コミュニティセンター2階ホールに於いて福祉部会主催で真砂うきうき元気塾が開催されました。今回は趣向を変えて古町芸者にも参加いただき芸妓さんの舞に会場は大いに盛り上がりました。参加者は87名でした。当日の内容は

(1)健康増進講座「健康と笑い」と題して、講師西区役所健康福祉課小川保健師のお話

日本人の平均寿命は男79・6才、女89・4才、健康寿命(日常的に介護を必要としない自立した生存期間)は男70・4才、女73・6才、平均寿命と健康寿命の差は10才以上とかけ離れている。健康にみずみずしく老いたいものです。



そのためには心の健康が重要、心の健康を保つには笑いが大切、笑うと自然治癒力や免疫機能が向上するしホルモンが出やすくなる。また運動と同じ効果もある。という要旨でした。その後講師の指導で「ぐうちよきぱっ」「どんぐりころころ」など歌いながら左右の手をさまざまに交互に動かしたり、鼻を交互に触ったりと頭との連動体操で終わり、休憩



の後芸妓さん達を迎えました。
(2)古町芸妓さん3人の舞の出演しっとりとした三味線の音に合わせ2人あるいは3人で4種類の舞が華やかに演じられました。



終わってから芸妓のトークショーと称して、自己紹介をしてもらい、芸妓になったきっかけや何年目になるかなど質問に答えてもらいました。



最後に自治会グループ4グループに分かれ芸妓さんと一緒に写真撮影もありました。閉会後希望者には保健師による血圧測定が行われました。

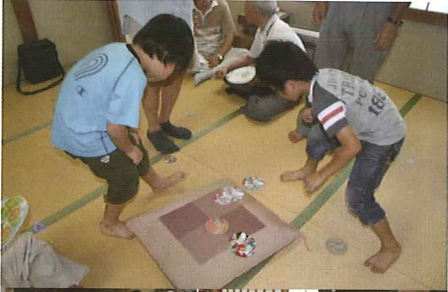
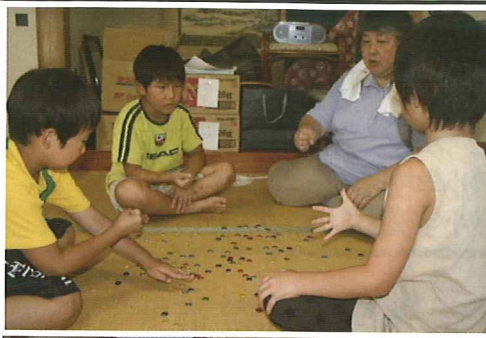


世代交流の集い 「こどもたちと遊び隊」

福祉部会

去る8月23日(日)午後一時半から真砂会館において、高齢者が子供の頃の遊びを通して子供達とふれあい、日本の昔からのさまざまな遊びを今のこどもたちに受け継いでもらい、少しでも良き日本文化の一端を知ってもらおう、又大勢の子供達と遊ぶことで高齢者の生き甲斐づくりにもなれば、という思いで世代交流の集いが開催されました。大人36名小学生46名計86名が参加し楽しい一時を過ごしました。

福祉部会長からみんなで楽しく遊んでもらう催しであることや、新潟日報朝刊窓欄に掲載された小学生の「お年寄りを大切にしよう」という内容の投稿記事の紹介などがありました。



その後ゲームと「もの作り」に分かれ、ゲームはお手玉、あやとり、おはじき、メンコ、折り紙のグループに分散し、もの作りには一般社団法人「こども文化育成会」のメンバーが指導に当たり「真砂スカイツリー」の製作に挑戦、それぞれに大人も混ざって遊びに興じました。

そのほか時間に余裕(?)のある子供達はカッタン将棋、回り将棋、よく回るおもちゃや飾り作りを楽しんでいました。

ゲームでは、古きよき時代の遊びに高齢者は当時を想い、子供達はものめずらしさもつだって、それぞれの思いで興じていました。また子供たちと工夫しながら「もの作り」に夢中になる高齢者の姿も印象的でした。

集い終了間際に配られたお菓子を笑顔で受け取る子供たちの姿もほほえましく感じられました。



自治会めぐり

2つの自治会で運営する

「ごみステーション」

晴海ヶ丘自治会（155世帯）と小針台自治会（145世帯）が共同運営する「ごみステーション」概要（位置、大きさ、管理・運営、予算規模）について記します。

晴海ヶ丘・小針台両自治会

事業回顧

両自治会共新開地で市のごみ収集の恩恵はまだ受けていなかった。所謂「生ごみ土中埋め込み廃棄」が行われていた。

昭和40年中頃迄は「内野結核療養所」（現西新潟中央病院）正門へのバス道路と交差する通称「赤道」の一角（現在所）に共同のごみ投棄場所があった。

昭和40年代後半に掛けて両自治会共同ごみ捨て場初期ステーション設置、管理を行う話し合いが行われ合議の上、現状スタイルとなった。

「ごみステーション」

小針台・晴海ヶ丘

両自治会共同運営について。

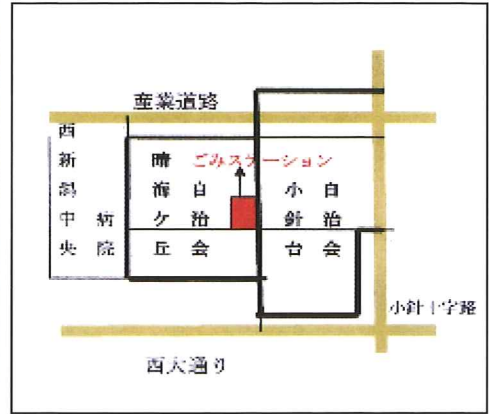
一、「ごみステーション」の

設置位地と大きさ。

設置場所は「西区真砂1丁目9番2号」

ちようど両自治会の境界付近に有つ

て、両自治会合わせて300世帯ほどが利用している。独自集積場を維持するマンション世帯は使用しない。



「ごみステーション」改修後全体像



「ごみステーション」

右=小針台・
左=真砂1丁目(晴海ヶ丘)

ごみステーションまで最も遠い世帯は270m(晴海ヶ丘)、310m(小針台)の距離がある。又自治会員の高齢化が年々進み、晴海ヶ丘自治会では65歳以上の高齢者が全体の42%となっており、西区の平均を大きく超えている。このため今後、ごみステーションまでのごみ持ち運びが負担になって来る事

が予想される。

「ごみステーション」の大きさは間口1.9m、奥行き6.4m、高さ2.3mのかまぼこ型。「枯れ葉・草」と「燃やすごみ」の同時収集日にはかなり高く積み上げられるが、キャパシティは十分余裕がある。



ごみステーション掲示板

二、管理・運営。
双方自治会が隔月ごとに管理当番となって、ごみ収集後の清掃や違反ごみの処理をしている。

晴海ヶ丘自治会では原則として、全世帯に清掃などを依頼し、年間清掃回数は1世帯当たり1回く2回となっている。但し、アパート入居者にはお願ひしていない。

小針台自治会では6人でローテーションを組んで実施している。

「ごみステーション」修理は自治会員によるボランティアで行われている。床の剥げ落ち部分にセメントを施

工したり、正面ネット破損を直し、隙間を塞ぐ補修を行ったりする。日頃の丁寧な清掃と修理で、カラス・猫等の侵入もなく、環境は保たれている。

三、予算規模

両自治会（小針台・晴海ヶ丘）の会長・副会長の3役で構成する「ごみステーション運営委員会」が毎年3月中旬に開催され、決算、予算を審議決定して4月の各々自治会「総会」で報告している。事務局は両自治会の衛生担当副会長が担当し、隔年ごとの交代制を取っている。

ごみステーションの運営会費として、1世帯当年間1,000円を徴収し、平成24年度は晴海ヶ丘自治会15万5千円（155世帯）、小針台14万5千円（145世帯）と合わせて30万円の収入と前年繰越の8万円を加えて年間38万円の総予算規模となる。

一方、主な支出は清掃費で、年間22万8千6百円と支出全体の60%を占めている。

清掃費はごみが収集された後に実施する清掃や違反ごみの処理に対する謝礼金で、1回当たり900円×年間254回の清掃日分の支出となる。その他には水道料・補修費実費等がある。

追記 今年8月前面ネットを鋼製亜鉛鍍金開閉扉に改修した。

以上
（文） 晴海ヶ丘自治会

写真教室開催

文化部会去

去る7月22日(日)
坂井輪コミセンで第4
回目の「写真教室」を開
催しました。



先回好評でしたので
講師に新潟フジカラー
の田中栄司課長を招き
写真の撮り方の基本等
コンテスト、応募作品や
入賞作品を例に教えて
いただきました



真砂小学校文化祭に写真展

文化部会

11月28日(日) 真砂小学校文化祭に文
化部会が参加し写真展を開催しました。
写真の他、文化部会の要請に応じて絵手
紙、手芸なども展示され、大勢の皆さんが
興味深そうに食い入
るように鑑賞してお
りました。朝9時か
ら午後2時半迄の短
い時間帯でしたが約
280人の方々に観
ていただきました。



真砂小学校区野球連合

リーグ戦終わる

スポーツ部会

5月13日開会式を行い9月30日全試
合が終了しました。結果は優勝が真砂一
丁目、準優勝真砂二丁目でした。参戦チ
ームは真砂一丁目、二丁目、松海が丘第
一、第二、第三各自治会、日本海、真砂
マリンストロングシニア、の7チーム。
また共催による日報、信金杯は9月2
日、9日の二日間にわたりトーナメント
で親善試合が行われ、優勝真砂2丁目、
準優勝真砂1丁目チームでした。



防火・防犯パトロール実施

防火防犯部会

8月25日及び10月18日の午後4時か
ら6時まで地区の各公園を中心に防犯パ
トロールを実施しました。夕時の時間帯の
せいか公園で遊ぶ子ども達は見当たらず、
通行人もまばらでしたが「御苦労さまで
す」と声をかけられました。
パトロールの途中西小針台、佐渡見公園
の滑り台、上り用のロープの一部損傷と着
地砂場が固くなっていて危険でしたので、
西小針台自治会がその後対処し、区より改
善していただきました。

尚10月31日白根カルチャーセンターで
「新潟市安心・安全なまちづくり市民大
会」が開催され、防火防犯部会から部員2
名が参加しました。

**最近松海が丘保安林、真砂草原で不審
火が発生しています。
火の用心に努めましょう**

編集後記

夏は猛暑続きでしたが、急に寒くなり、
短い秋をとおろ過ぎたような感じがしま
す。今年も余すところひと月たらずになり
ました。

当コミ協の事業計画も各部会の活発な
活動で予定通り順調に進んでいます。

13号は載せたい良い写真が沢山あり、選
ぶのに苦心しました。今年度は14号まで発
行予定です。